

〈入選〉

福岡県 古池さん（高校生 女性）

「年金生活だから。」祖母は、セールスの電話がかかると、いつもそう答えています。年金受給の日に高齢者を狙った振り込み詐欺が、多発するという話も聞いたことがあります。高校生の私には、「年金」は、無縁のもので、祖父母のような高齢者の為の制度という意識がありました。

私は日本年金機構のホームページを読んでみました。国民年金制度は、憲法第25条の国民の生存権・国の社会的使命に基づいて、作られた制度だったのだと初めて知りました。高齢者には、老齢基礎年金。障害を持った方には障害基礎年金。遺族に対しては、遺族基礎年金というように、全国民が健康で文化的な最低限の生活を営めるように作られているのです。しかし、この「年金制度」を果たして、きちんと理解して年金保険料を支払っている人がいったいどのくらいいるのでしょうか？

大学生のいところが、二十歳になった時に、学生でも国民年金に加入して保険料を納めなければならないのだけど、「学生納付特例制度」のおかげで、社会人になってからの支払いで良くなり、両親に負担をかけずに済んだ、と話していたのを思い出しました。

報道で年金や税金の話題が出ると、いつも「値上げ」というようにマイナスイメージにされているように思うのです。きちんと理解していれば、いところが受けられた制度もあり、「取られる」というイメージは無くなると思うのです。

私は、この夏「高校生のための日本の次世代リーダー養成塾」に参加しました。2週間という短時間でしたが、「ハイスクール国会」で、今日本がまさに直面している東日本大震災からどう復興していくかということを議論しました。そこで「税金」は、一番に議論された内容でした。しかし「年金」に関しては議案の中にも上がらなかったのです。私をはじめ、高校生の私たちにとっては、「年金」に関しては、意識が浸透していないのが現実だったのです。今さらですが、リーダー塾に行く前に「年金」に関して、きちんと勉強していたら、復興計画の議論の中にも「年金」を取り上げることが出来たのではないかと思います。「年金」という項目も復興計画の中に必要不可欠なものだったのではないかと、思うのです。

高校生の私たちにとって、「年金」は、「税金」のように身近なものではないのは、確かです。しかし、これからの社会を担っていかなければいけない私たち世代だからこそ、今、「年金制度」を理解する必要があると思うのです。

社会人になって、年金保険料を支払う時に、全国民の健全な国民生活の維持・向上に寄与できているのだと実感できるような社会になっていること、そして、滞納者も無く、誰もが満足できる「年金制度」として理解されている社会であって欲しいと思います。